

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月11日

【四半期会計期間】 第112期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 富士古河 E & C 株式会社

【英訳名】 FUJI FURUKAWA ENGINEERING & CONSTRUCTION CO.LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 日 下 高

【本店の所在の場所】 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア西館

【電話番号】 044(548)4500(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 倉 内 正 幸

【最寄りの連絡場所】 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア西館

【電話番号】 044(548)4500(代表)

【事務連絡者氏名】 財務経理部長 倉 内 正 幸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第111期 第 2 四半期 連結累計期間	第112期 第 2 四半期 連結累計期間	第111期
会計期間		自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日	自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日	自 2020年 4 月 1 日 至 2021年 3 月31日
売上高	(百万円)	32,133	35,747	74,168
経常利益	(百万円)	1,693	1,773	5,920
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損益	(百万円)	1,127	1,174	3,902
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,128	1,266	4,180
純資産額	(百万円)	26,162	29,640	29,212
総資産額	(百万円)	48,746	52,581	56,558
1株当たり四半期(当期)純損益	(円)	125.43	130.63	433.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	52.1	55.0	50.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,420	3,124	7,843
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	101	405	392
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	682	1,111	465
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	9,990	15,925	14,316

回次		第111期 第 2 四半期 連結会計期間	第112期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年 7 月 1 日 至 2020年 9 月30日	自 2021年 7 月 1 日 至 2021年 9 月30日
1株当たり四半期純損益	(円)	94.61	121.69

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間における、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

（電気設備工事業）

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社三興社、篠原電機工業株式会社及び株式会社富士工事は、2021年4月1日付けで株式会社三興社を存続会社とする吸収合併を行い、株式会社エフトリアに社名変更しております。

この結果、2021年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社14社、関連会社3社により構成されることになりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い緊急事態宣言が再発出され、経済活動や社会活動が制限されるなど厳しい状況が続く中、一部で持ち直しの動きもみられました。海外においては、ワクチン接種の進捗状況により各国における経済活動の制限緩和や経済対策による需要の回復が二極化しており、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループの属する設備工事業界におきましては、労働力不足や熾烈な受注競争が続く中、データセンター・半導体・物流倉庫分野などでは引き続き投資が拡大するなど、まだら模様ながら市況は回復基調で推移しました。一方、当社が事業展開している東南アジアにおいては、新型コロナウイルス感染症の再拡大による経済活動の制限が継続され、非常に厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大の防止に努めるとともに、事業戦略及び営業戦略の徹底強化による物量の確保、持続的成長に向けた投資による経営基盤の強化、生産性向上に向けた業務改善の徹底による働き方改革の推進を重点課題として、事業環境の変化に柔軟に対応しながら引き続き競争力の強化に向けて取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、受注高382億円（前年同期比6.0%増）、売上高357億円（前年同期比11.2%増）、営業利益17億61百万円（前年同期比8.2%増）、経常利益17億73百万円（前年同期比4.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益11億74百万円（前年同期比4.1%増）となり、全ての項目で前年同期を上回りました。なお、今年度から適用の「収益認識に関する会計基準」の影響により、売上高は18億円、営業利益は20百万円増加しております。

報告セグメントの工事分野及びセグメント別の状況につきましては、次のとおりであります。

報告セグメント	工事分野
[電気設備工事業]	(プラント工事業) 社会インフラ工事、産業システム工事、発電設備工事、送電工事 (内線・建築工事業) 内線工事、建築・土木工事、情報通信工事
[空調設備工事業]	産業プロセス空調設備工事、一般空調・衛生設備工事
[その他]	物品販売及び補修・修理等

[電気設備工事業]

受注高は268億円（前年同期比3.2%減）、売上高は247億円（前年同期比17.7%増）、営業利益は10億55百万円（前年同期比50.6%増）となりました。

受注高はほぼ前年同期並みに推移しました。売上高は手持ち工事の進捗が堅調だったことから前年同期を上回りました。営業損益は大型案件の竣工などにより前年同期を上回りました。

[空調設備工事業]

受注高は103億円（前年同期比34.1%増）、売上高は103億円（前年同期比1.8%減）、営業利益は5億6百万円（前年同期比35.8%減）となりました。

受注高は半導体分野の大型案件があったことから前年同期を上回りました。売上高はほぼ前年同期並みに推移しました。営業損益は前期に産業プロセス空調工事の大型高採算案件があったことなどから前年同期を下回りました。

[その他]

受注高は10億円（前年同期比61.9%増）、売上高は6億円（前年同期比14.9%増）、営業利益は1億98百万円（前年同期比44.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ39億円減少し、525億円となりました。主な要因は受取手形・完成工事未収入金及び契約資産の減少（45億円）、未成工事支出金の減少（6億円）、預け金の増加（17億円）であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ44億円減少し、229億円となりました。主な要因は支払手形・工事未払金等の減少（26億円）、未払法人税等の減少（10億円）であります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ4億円増加し、296億円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上（11億円）、配当金の支払（8億円）であります。

(3) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローでの資金の増加、投資活動、財務活動での資金の減少により前連結会計年度末と比べ16億円増加し、期末残高は159億円となりました。

営業活動による資金の増加は31億円（前年同期は34億円の増加）となりました。これは、主に売上債権及び契約資産の減少、未成工事支出金の減少、仕入債務の減少、契約負債の増加、法人税等の支払によるものであります。

投資活動による資金の減少は4億円（前年同期は1億円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出、無形固定資産の取得による支出によるものであります。

財務活動による資金の減少は11億円（前年同期は6億円の減少）となりました。これは配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	9,026,561	9,026,561	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 100株であります。
計	9,026,561	9,026,561		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年9月30日		9,026		1,970		1,801

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
富士電機株式会社	神奈川県川崎市川崎区田辺新田1-1	4,158	46.24
古河電気工業株式会社	東京都千代田区大手町2丁目6番4号	1,819	20.23
富士古河E & C社員持株会	神奈川県川崎市幸区堀川町580	319	3.55
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号	171	1.91
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	154	1.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	121	1.35
千々石寛	千葉県印西市	66	0.74
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目1-1	60	0.68
株式会社日本カストディ銀行(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-12	48	0.53
吉永英隆	福岡県中間市	34	0.38
計		6,954	77.33

(注) 上記のほか当社保有の自己株式33千株(0.37%)があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 33,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,963,900	89,639	
単元未満株式	普通株式 29,161		
発行済株式総数	9,026,561		
総株主の議決権		89,639	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式25株、証券保管振替機構名義の株式が40株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 富士古河E & C株式会社	川崎市幸区堀川町 580番地	33,500	-	33,500	0.37
計		33,500	-	33,500	0.37

- 2 【役員の状況】
該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(1949年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	6,388	6,205
受取手形・完成工事未収入金等	28,136	-
受取手形、完成工事未収入金及び契約資産	-	23,590
電子記録債権	3,999	3,909
未成工事支出金	1,695	1,093
材料貯蔵品	148	175
預け金	9,054	10,792
その他	2,008	1,632
貸倒引当金	154	150
流動資産合計	51,277	47,248
固定資産		
有形固定資産	2,467	2,531
無形固定資産	371	387
投資その他の資産		
その他	2,632	2,603
貸倒引当金	189	189
投資その他の資産合計	2,442	2,413
固定資産合計	5,281	5,332
資産合計	56,558	52,581
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	16,104	13,422
短期借入金	345	22
未払法人税等	1,630	619
未成工事受入金	2,349	-
契約負債	-	2,922
完成工事補償引当金	126	126
工事損失引当金	35	64
その他	3,450	2,547
流動負債合計	24,042	19,726
固定負債		
退職給付に係る負債	1,699	1,660
その他	1,604	1,553
固定負債合計	3,304	3,214
負債合計	27,346	22,941

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,970	1,970
資本剰余金	6,636	6,636
利益剰余金	20,139	20,504
自己株式	29	29
株主資本合計	28,716	29,081
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	85	101
為替換算調整勘定	161	141
退職給付に係る調整累計額	162	126
その他の包括利益累計額合計	238	166
非支配株主持分	734	725
純資産合計	29,212	29,640
負債純資産合計	56,558	52,581

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	32,133	35,747
売上原価	26,806	30,406
売上総利益	5,326	5,341
販売費及び一般管理費	1 3,699	1 3,579
営業利益	1,627	1,761
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	6	6
為替差益	32	3
投資有価証券売却益	24	-
保険解約返戻金	16	11
その他	22	20
営業外収益合計	105	44
営業外費用		
支払利息	29	24
コミットメントフィー	5	5
その他	5	2
営業外費用合計	40	32
経常利益	1,693	1,773
税金等調整前四半期純利益	1,693	1,773
法人税等合計	562	588
四半期純利益	1,130	1,184
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	9
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,127	1,174

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,130	1,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	16
為替換算調整勘定	60	30
退職給付に係る調整額	47	35
その他の包括利益合計	2	82
四半期包括利益	1,128	1,266
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,145	1,245
非支配株主に係る四半期包括利益	17	21

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,693	1,773
減価償却費	251	202
のれん償却額	26	14
工事損失引当金の増減額(は減少)	20	29
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	31	38
受取利息及び受取配当金	9	9
支払利息	29	24
為替差損益(は益)	29	50
投資有価証券売却損益(は益)	24	-
売上債権の増減額(は増加)	10,379	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	4,613
未成工事支出金の増減額(は増加)	1,779	602
仕入債務の増減額(は減少)	5,167	2,678
未成工事受入金の増減額(は減少)	679	-
契約負債の増減額(は減少)	-	531
その他	954	289
小計	5,041	4,725
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	29	24
法人税等の支払額	1,600	1,585
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,420	3,124
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	200	818
定期預金の払戻による収入	267	872
有形固定資産の取得による支出	99	215
無形固定資産の取得による支出	59	151
投資有価証券の売却による収入	50	-
関係会社株式の取得による支出	106	-
差入保証金の差入による支出	7	53
差入保証金の回収による収入	54	13
貸付けによる支出	-	49
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	101	405
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	52	-
短期借入金の返済による支出	-	239
配当金の支払額	674	808
非支配株主への配当金の支払額	15	15
その他	45	47
財務活動によるキャッシュ・フロー	682	1,111
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,622	1,608
現金及び現金同等物の期首残高	7,219	14,316
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	149	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 9,990	1 15,925

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社三興社、篠原電機工業株式会社及び株式会社富士工事は、2021年4月1日付けで株式会社三興社を存続会社とする吸収合併を行い、株式会社エフトリアに社名変更しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、工事契約に関して、従来は、工事の進捗部分について成果の確実性が認められる場合には、工事進行基準によっておりましたが、財又はサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財又はサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の測定は、各報告期間の期末日までに発生した工事原価が、予想される工事原価の合計に占める割合に基づいて行っております。また、契約の初期段階において、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しています。なお、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事契約については代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,863百万円、売上原価は1,841百万円、販売費及び一般管理費は1百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ20百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は0百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形・完成工事未収入金等」は第1四半期連結会計期間より「受取手形、完成工事未収入金及び契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「未成工事受入金」は第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することとしました。なお、収益認識基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替を行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、当社グループにおいては、一部の工事について施工中断等の影響が発生しております。そのため、当社グループにおいては、この工事の施工中断等による影響が2022年3月期までの一定期間続くものと仮定し、工事進行基準の見積りや繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルスによる経済活動への影響は不確実性が高いため、先述の仮定に状況変化が生じた場合は当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、前事業年度有価証券報告書で記載した内容から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

金融機関からの借入に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
JMP Engineering&Construction社	9百万円	48百万円

2 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当四半期連結会計期間末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
貸出コミットメントの総額	7,000百万円	6,200百万円
借入実行残高	-百万円	-百万円
差引額	7,000百万円	6,200百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なものは次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
従業員給与手当	1,651百万円	1,578百万円
退職給付費用	150百万円	142百万円

売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

当社グループの売上高は、主たる事業である建設事業において、契約により工事の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
現金預金勘定	5,601百万円	6,205百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	1,095百万円	1,073百万円
流動資産その他(預け金)	5,485百万円	10,792百万円
現金及び現金同等物	9,990百万円	15,925百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月20日 取締役会	普通株式	674	75.00	2020年3月31日	2020年6月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月21日 取締役会	普通株式	809	90.00	2021年3月31日	2021年6月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第 2 四半期連結累計期間(自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	電気設備 工事業	空調設備 工事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,983	10,578	31,562	571	32,133
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	20,983	10,578	31,562	571	32,133
セグメント利益	701	789	1,490	137	1,627

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売及び補修・修理等のサービス部門を含んでおります。

当第 2 四半期連結累計期間(自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	電気設備 工事業	空調設備 工事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	24,707	10,383	35,091	656	35,747
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	24,707	10,383	35,091	656	35,747
セグメント利益	1,055	506	1,562	198	1,761

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売及び補修・修理等のサービス部門を含んでおります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第 1 四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に变更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第 2 四半期連結累計期間の「電気設備工事業」の売上高は1,129百万円増加、セグメント利益は15百万円増加し、「空調設備工事業」の売上高は669百万円増加、セグメント利益は5百万円増加し、「その他」の売上高は65百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
 (単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	電気設備 工事業	空調設備 工事業	計		
売上高					
一時点で移転される財 およびサービス	5,682	3,133	8,815	591	9,406
一定の期間にわたり 移転される財および サービス	19,025	7,249	26,275	65	26,340
顧客との契約から 生じる収益	24,707	10,383	35,091	656	35,747
外部顧客への売上高	24,707	10,383	35,091	656	35,747

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物品販売及び補修・修理等のサービス部門を含んでおります。

(金融商品関係)

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益	125.43円	130.63円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,127	1,174
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,127	1,174
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,993	8,993

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

富士古河E & C株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 大 屋 誠 三 郎
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 大 貫 一 紀
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士古河E & C株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、富士古河E & C株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。